

高等学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月9日(火)午後1時から午後2時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 高等学校部会員8名(全員出席)

2 重点目標

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

基本的なアプリ(ワープロ・表計算・プレゼン等)についてはある程度使えている。

授業支援アプリについては、各学校により活用頻度に大きく違いがある。Teams, MetaMoJiClassRoomで協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(イ)カメラ機能活用

映像の編集や加工までを目標としているため、習得には時間を要している。まずWindowsの標準機能のVideo Editorを利用する。

(ウ)文字入力

ローマ字入力には慣れているが、キーの割付位置などの端末に依存する部分については十分とはいえない。また情報を整理しながらの入力も十分とはいえない。

意見を整理しながらのレポート作成や、受け手を意識してのメール送信などを行う。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

フォルダの構造や管理については理解が進んできている。

モデル化やシミュレーションの理解までを目標としているため、習得には時間を要している。

ビッグデータの活用例などを紹介し、重要性に気付かせる工夫をする。

(イ)プレゼンテーション力

ICT活用の中では取り組みやすく、スキルも順調に習得されてきている。今後も、総合的な探究の時間や、課題研究、ホームルーム活動で発表を繰り返すことにより、さらにスキルを上げる。

(ウ)情報収集力

端末の活用の中でも実践しやすい項目であり，スキルも順調に習得されてきている。

情報の信頼性の判断が不十分である。

簡単な調べ学習などにどんどん取り組みながら，情報の妥当性や信頼性を判断するスキルの習得を目指す。

(エ)コミュニケーション力

様々なアプリの共有機能を利用し，複数の生徒で成果物を作る活動はかなり広まっており，スキルも順調に習得されてきている。コロナ禍においては，ICTを利用した活動は非常に有効な手段になるので，今後も今まで以上に協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(3)情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

ネット社会における基本的原理を理解し，情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断ができることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

一般的なモラルの延長に情報モラルもあることに留意し，指導を進める。

(イ)情報に関する権利

情報に関する法規や制度及びマナー，個人の果たす役割や責任などについての理解は進んできている。今後は，生徒自身の問題として捉え，議論できるように，身近な事例を紹介する。

(ウ)危険回避

インターネットの危険性についてはある程度理解できているようである。

今後は，学んできた知識を適切な行動につなげるとともに，他者を啓発していけるよう，議論しながら考えを深めさせる。

(エ)情報の取り扱い

個人情報等の取り扱いについては理解が進んでいる。

情報デザインの考え方や，その方法に基づいて表現された情報を評価・改善することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

芸術・数学・情報などで，普段目にする可視化された情報のデザインについて考える授業を行う。

(オ)健康面への配慮

自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣について，その意義を理解することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

自らの心身と向き合いながら，端末使用時間の管理や適正な使用を常に意識できるように指導する。

(カ)情報セキュリティ

情報セキュリティを確保するための方法や技術についての理解と，それらの利用を考えることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

様々な情報に触れる機会が増えてきており、セキュリティ面の意識の向上は急務である。現在端末に導入されているセキュリティの例を挙げながら具体的に指導する。

4 端末の持ち帰り状況

- ・ 高等学校ではすべての学校が一度以上持ち帰りをさせている。生徒の申し出により自由に持ち帰らせている学校もある。ICTのスキル向上のためには、やはり「慣れる」という要素が重要なので、持ち帰りをすすめることは非常に重要である。
- ・ 自宅での設定がうまくいかない、自宅から学校に持って帰ってくるとうまく学校のネットワークにつながらない等の問題がある。このような基本的な問題を解決することで、より自宅での利用が進むと思われる。また、持ち帰りさせるためにバッグなどを学校で用意したところも少なくない。このような事例も紹介しながら推進していく。
- ・ 高等学校は生徒の通学範囲が広く、持ち帰りが通学の大きな負担となることがある。持ち帰りをすすめることはもちろんのこと、せっきくのクラウドサービスなので、自宅にある端末やスマートフォンでアクセスして使うことも想定して、利用を促すことも大切である。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

今年度「学校全体での組織的推進」を進めることを重点目標に挙げており、情報担当者や少数のスキルが高い教職員だけではなく、全教職員が少しずつでも着実にICTを利用した授業や特別活動に取り組む状態を目指している。

しかしながら、教職員のICTスキルの不足や、マシントラブルなどで活用に積極的になれない等の理由で不十分な状況にあり、年度末に向けて一層の取組を推進していく必要がある。生徒のスキルは予想より高く、機会を増やせば比較的早く効果的な使い方を習得すると考えられる。

今後は、職員研修等を継続的に行ってもらうことで全体の底上げを図り、活用頻度を上げていくとともに、好事例の情報提供をすることで活用イメージを持ちやすくし、教職員の活用頻度を上げていく。

(今後の予定)

- 1月
 - ・ 積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・ 第2回高等学校担当者会の実施
内容：端末の年度更新，アカウントの年度更新，不具合・故障対応の状況，GIGAスクールサポートサイトの活用周知
 - ・ GIGAスクールサポートサイトで，好事例，端末のトラブル対応法，便利な使い方等についての情報発信
 - ・ GIGAスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoom，MS365の活用，各教科学習での活用等
- 2月
 - ・ 徳島県「教育の情報化」推進フォーラム高等学校部会で，端末を使った先進的な取組事例を発表してもらい，参加者で協議する。